



デスモプレシン点鼻スプレー
2.5 μ g「フェリング」

を使用されている皆様とご家族の方へ



尿崩症とは？

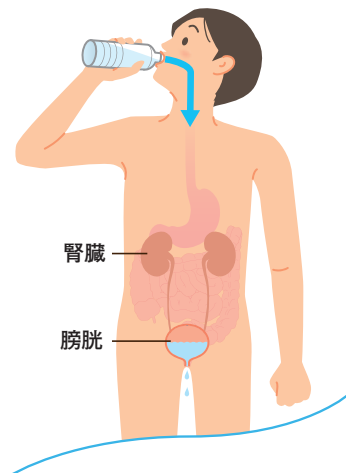
「雪が崩れる」と書いて雪崩(なだれ)と読みますが、「尿が崩れる」と書く尿崩症(にょうほうしょう)は、まるで雪崩のように、大量の尿が流れ出るような「多尿」が特徴の疾患です。尿崩症では、水を多く飲むため尿がたくさん出るのではなく、尿がたくさん出るため水を多く飲みたくなります。通常、成人の一日尿量は1~2L(リットル)ですが、尿崩症になると少ない人でも3L、多い人では10L以上の「多尿」になります。

例えば、24時間で10Lの尿が出ると、1時間あたりの尿量は約0.4L(400mL)になります。成人の膀胱容量は400~500mLですので、ほぼ1時間毎にトイレに行くことになります。このため、日中はトイレが確保できないと外出が困難となり、夜中は何度もトイレに起きてしまって熟睡しにくい状態になります。

多尿により体から水分が抜けてしまうので、非常に喉が渇き(口渇)、尿量に見合う水分を摂取しないと(多飲)、脱水状態となります。このように尿崩症では「口渇・多飲・多尿」がおきることが特徴です。

なお、小児では単なる、おもらし・おねしょと勘違いされ発見が遅れることがあります。

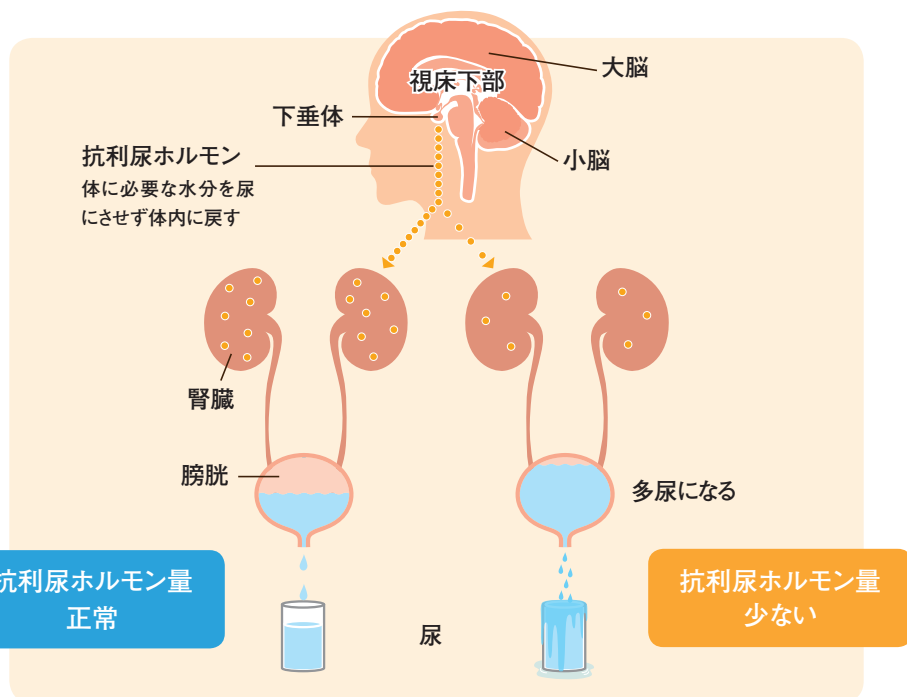
飲んだ水は体に吸収されます。
体に溜まった水分は腎臓で尿となり、膀胱に貯められ、排泄されます。



腎臓における水分調節

腎臓の働きは、「水分の調節作用」と「体に溜まったアンモニアなどの老廃物の排泄作用」の大きく2つに分けられます。尿崩症では水分の調節作用がうまくいかず多尿になりますが、老廃物の排泄作用には問題がありません。

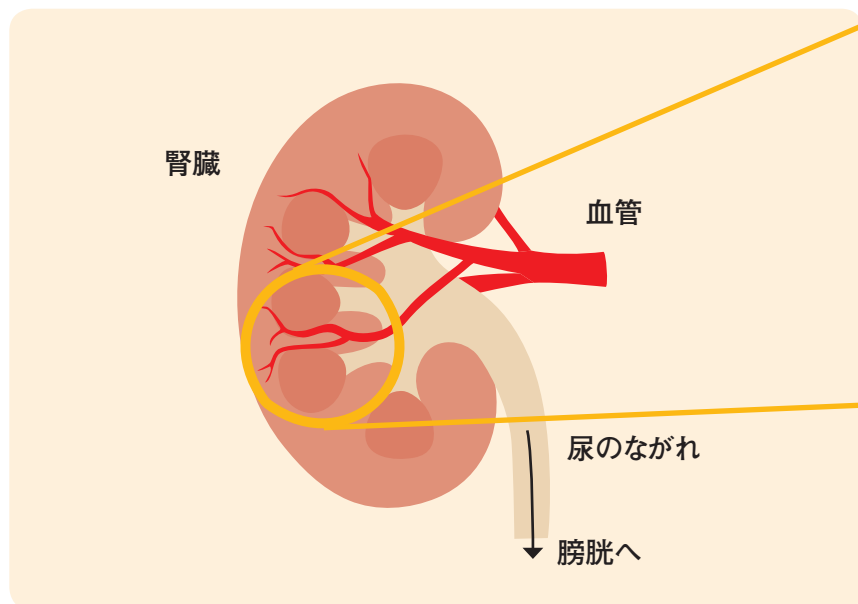
尿の水分は腎臓を流れる血液の水分がもとになります。健康な人であれば1分間に約100mL、24時間に換算すると144L(小さめのお風呂一杯分)もの血液が腎臓で濾過され、尿のもとになる原尿(げんにょう)が作られます。原尿の水分は腎臓を流れるうちに99%が「再吸収」により血管に戻り、実際に尿になるのは約1%の1~2Lになります。この再吸収のために必要なのが下垂体(かすいたい)から分泌される「抗利尿(こうりにょう)ホルモン」です。



抗利尿ホルモンとは？

体内では様々なホルモンが作られ体のバランスを整えています。そのうち、腎臓に働いて体の水分量の調整を行っているホルモンが「抗利尿ホルモン」です。ADH、AVP、バソプレシンとも呼ばれます。脳の視床下部(ししょうかぶ)で作られ、下垂体に蓄えられ、その後分泌されます。「抗利尿ホルモン」は、「利尿(尿の出を良くすること)」をさせないよう「抗う」(あらがう、抵抗する)ホルモンのことで、「尿を減らす」役割をするホルモンです。

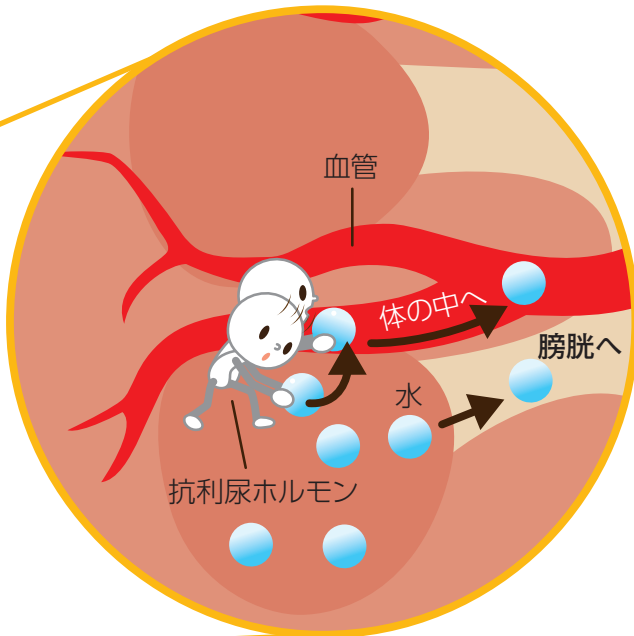
例えば、暑くて大量の汗をかいたときに水分の補給量が少ないと、尿量は減り、黄色い濃い尿(濃縮尿)になります。これは体の水分量が不足したため、下垂体から抗利尿ホルモンがたくさん分泌されて尿が減るからです。逆に、水をたくさん飲むなどして体の中に水分が溜まりすぎると、抗利尿ホルモンの分泌が減り、薄い水のような尿(希釈尿)がたくさん出ます。



中枢性尿崩症とは？

尿崩症には、下垂体での抗利尿ホルモン分泌が不足して生じる中枢性尿崩症と腎臓に原因がある腎性尿崩症があります。

中枢性尿崩症は頭部の外傷、視床下部や下垂体の病気や手術などが原因となって起こる場合と、原因不明(「特発性」といいます)の場合があります。中枢性尿崩症では、「抗利尿ホルモン作用」を持つくすりを使って尿量を調整します。



抗利尿ホルモンは、膀胱へ流れる水分を血管内に戻す働きをします。中枢性尿崩症の方は、水を飲むのをがまんしても抗利尿ホルモンが多く作られるわけではありません。水を飲むことをがまんしないでください。

このくすりの名前、有効成分など

製品名	デスマプレシン点鼻スプレー2.5 μ g「フェリング」
一般名(有効成分)	デスマプレシン酢酸塩水和物
有効成分含量	125 μ g/1ビン(5mL)
1回の噴霧量	2.5 μ g(薬液量として0.1mL)
液の色	無色澄明

μ g(マイクログラム)：1/1000ミリグラム

●1ビン中に50回噴霧できるだけの薬液が入っています。

このくすりはたらきと使用目的

デスマプレシンは、抗利尿ホルモンと同じようなはたらきを持つ物質であり、抗利尿ホルモンの代わりに同じような作用を示し、体に必要な水分を尿にさせないことで多尿の改善が期待されます。その結果、口渇や多飲も改善される可能性があります。

このくすりをを使う前に知っておいてほしいこと

- このくすりは鼻腔内に投与するスプレー剤です。
有効成分を鼻の粘膜から吸収させるくすりであって、のみぐすりではありません(口からのんでも効きません)。
- 使い方をおぼえたり、飲み水の量やくすりの使用量を決めるために、入院が必要なこともあります。
- 以前にくすりをのんで発疹が出たことのある人、アレルギー性鼻炎を起こしたことのある人、鼻の病気になっている人、妊娠している人、授乳中の人、他にくすりをのんでいる人、高血圧・冠動脈血栓症・狭心症・下垂体前葉不全がある人は、必ずそのことを主治医の先生に伝えてください。

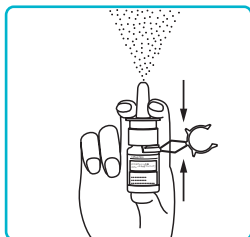
このくすりの標準的な使用量・使用回数

1. 小 児：1日1～2回、1回1～2噴霧(2.5 μ g～5 μ g)
 2. 成 人：1日1～2回、1回2～4噴霧(5～10 μ g)
1噴霧で、0.1mLが噴霧されます。
- 使用量や使用回数は人によって違いますので、主治医の先生の指示どおりに使用してください。
- ※ 1ビン中に50回噴霧できるだけの薬液が入っています。

このくすりの使い方

- このお薬は冷蔵庫に凍結を避けて保存してください。
- 使用量及び使用回数は医師の指示に従ってください。

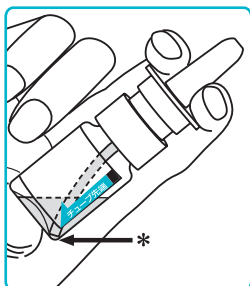
〔留意点〕



1) 本剤を初めて使用する時には、ポンプを数回(4回程度)押し、チューブに薬液が吸い上げられるようにし、薬液が霧状にでてくることを確認してからご使用ください。これを「空打ち」といいます。

また、長期間(1週間以上)使用していなかった場合等にもポンプを1回もしくは薬液が霧状にでてくるまで空打ちしてから使用する必要があります。

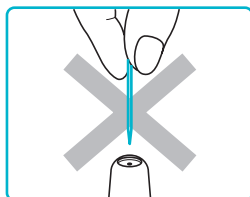
なお、噴霧する時には人差指と中指の力を均等にかき最後までポンプを押してください。



2) 噴霧使用時には、ピンの内側のチューブの先端が必ず薬液の中に入っている状態でご使用ください。

*チューブの先端は、ラベルの開いている矢印の間の方向に固定されています。ラベルの開いている方を手前にして噴霧すると、チューブの先端が薬液の中に入っている状態で使用できます。

(チューブ先端が薬液の中に入っていない状態で噴霧すると、チューブに空気が入り、正確な量が噴霧されることがあります。このような場合には空打ちしてからご使用ください。)

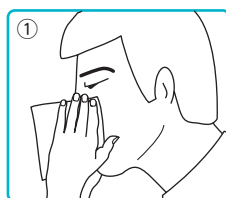


3) 薬剤の噴霧が不十分でも針やピンなどで噴霧口を突かないでください。正確な量を噴霧できなくなります。

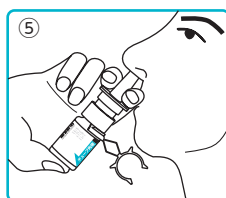


- 4) ポケット等、体温が伝わる所に入れて携帯しないでください。液もれを起こすおそれがあります。携帯が必要な場合は収納ケースにおさめてバッグ等に入れ、立てた状態で携帯してください。
- 5) バッグ等に入れて携帯する際、振とうや落下などの衝撃を加えないよう注意してください。液もれを起こすおそれがあります。

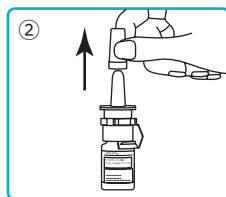
〔使用方法〕



① 本剤を噴霧する前に鼻をかんで鼻腔の通りを良くしてください。



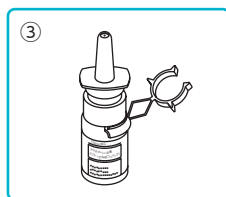
⑤ 頭を少し後ろに傾け、図のようにノズルの先端を鼻腔に入れ、息を止めて噴霧します。噴霧回数が複数の場合は、左右の鼻腔に交互に噴霧してください。



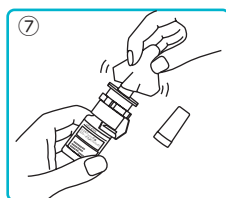
② 容器から保護キャップをはずします。



⑥ 噴霧後は薬液を鼻の奥まで行き渡らせるように、頭を後ろに傾けた状態で軽く鼻を押さえ、鼻から静かに息を吸うようにしてください。



③ 容器からストッパーをはずします。

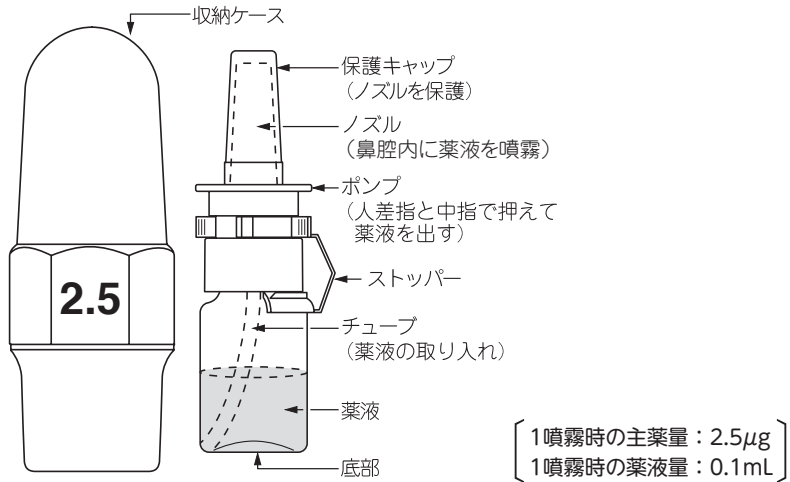


⑦ 使用後はストッパーを取り付け、ノズルの先端をきれいにふいて、保護キャップをしてください。使用しない時は、冷蔵庫でビンを立てた状態で保管してください。



④ 親指で底部を支え、人差指と中指でポンプを押さえ容器を図のように持ちます。

このくすりの使い方



- 1日の使用量や使用回数は人によってちがうので、主治医の先生の指示どおり使用してください。
- 自分の判断で勝手にくすりの量や使用回数を増やしたり、減らしたりしないでください。
- このくすりの使い方についてわからなかったり不安に感じた場合には主治医の先生あるいは薬剤師に相談してください。

くすりの保管方法

- 冷蔵庫にビンを立てた状態で保管してください。
その際、キャップはしっかり閉めてください。
- 外出または旅行などをする場合には、このくすりを忘れずに携行してください。
- 携帯するときには次の点にご注意ください。
ポケットなど体温が直接伝わる場所に入れないでください。
収納ケースにおさめてバッグなどに入れ、立てた状態で携帯してください。

副作用とその対策

くすりは人によって、目的の効果以外に、望ましくない作用が出る場合もあります。

〔水中毒について〕

- このくすりを使用する際に一番気をつけなくてはならないことは、水分の取りすぎなどで体に水分がたまって血液がうすまり、血液中のナトリウム濃度が低くなること(水中毒)です。
- 水中毒は、水分の取りすぎ、またはくすりの使用量が多い場合におこります。
- 水中毒の症状は、倦怠感、頭痛、吐き気、嘔吐、むくみなどで、さらに重くなると昏睡やけいれんといった症状が出てきます。
- 倦怠感、頭痛、食欲低下、吐き気、嘔吐、めまい、のぼせ、むくみ、けいれんなどの症状があらわれた場合には使用をやめて、すぐに主治医に連絡してください。

〔水中毒の予防について〕

- 多めに飲水してしまった場合は、くすりの使用をやめてください。発熱、ぜんそく等の飲水が増加する疾患を併せている場合は特に注意してください。
- 寝る前に排尿し、その後このくすりを噴霧するよう習慣づけてください。

〔その他の注意〕

- 発疹や全身のかゆみ、けいれんなどの症状があらわれた場合には、使用をやめて、すぐに主治医の先生に連絡してください。
- ふだんと違った症状があれば、早めに主治医の先生または薬剤師に相談してください。
- 他院や他科で診療を受ける際には、本剤を使用中である旨を必ず医師に報告してください。
- 新生児や乳児の場合、自分で自由に水分を取ることができないため、体重測定などを参考にしながら水分量を管理します。
- 口渇感（口がかわく）のない人も、日常から適正な水分量をお守りください。

くすりの使い方 Q & A

Q₁

つい使い忘れてしまいました。
どうしたらよいでしょうか。

A₁

- ①1日1回使用の場合：気がついたときすぐに使用してください。
翌日からは指示された時間に使用してください。
- ②1日2回使用の場合：気がついたときすぐに使用してください。
次回は最低6時間はあけて使用してください。
一度に2回分を使用しないでください。

Q₂

誤っていつもより多く使用してしまいました。
なにか問題が起こりますか。

A₂

倦怠感、頭痛、寒気、吐き気、けいれん、失神などが強く出ることがあります。そのような場合には主治医の先生または薬剤師に連絡してください。

Q₃

かぜで鼻がつまってしまいました。
どうすればよいのでしょうか。

A₃

このくすりは鼻の粘膜から吸収されるため鼻水が出てとまらなかつたり、鼻がつまった感じがするときには、くすりの効きが不安定になる可能性があります。そのような場合には、主治医の先生または薬剤師に相談してください。

Q₄

日によって、くすりの効果に差がありますか。

A₄

点鼻方法が正しく行われなかった場合は、噴霧量が不十分となり、くすりの効果が弱くなる場合があります。また、鼻水が大量に出ている、鼻がつまっているときは、吸収が悪くなるため、くすりの効果が弱まる場合があります。

Q₅

他のくすりといっしょに使う場合、
なにか問題はありませんか。

A₅

他の病気で別の医療機関にかかったときや薬局でくすりを買うときには、デスモプレシン点鼻スプレー2.5 μ g「フェリング」を使用していることを必ず伝えるようにしてください。

MEMO

医療機関名

主治医名

薬剤師名



フェリング・ファーマ株式会社



キッセイ薬品工業株式会社